

NEWS RELEASE

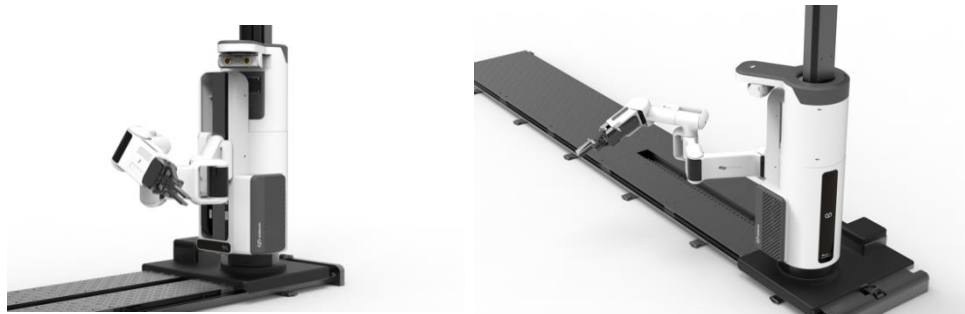
2021年11月2日

報道関係各位

株式会社ファミリーマート
Telexistence 株式会社

Telexistence 社新型ロボット『TX SCARA』を ファミリーマート経済産業省店に導入 ～バックヤードにおける飲料陳列業務を独自 AI システムで自動化～

株式会社ファミリーマート（本社：東京都港区、代表取締役社長：細見研介）と Telexistence 株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役 CEO: 富岡仁、以下 TX）は、TX の独自 AI システム『Gordon』を搭載した新型ロボット『TX SCARA』を「ファミリーマート経済産業省店」（所在地：東京都千代田区霞が関）に導入いたしました。



■ バックヤードにおける飲料補充業務を店舗従業員に代わりロボットが 24 時間補充！

このたび導入する TX が開発した新型ロボット『TX SCARA』は、店舗従業員への作業負荷の大きいバックヤード内での飲料補充業務を 24 時間行います。バックヤードの狭いスペースで稼働可能な水平多関節型のロボットで、通常時は『Gordon』が自動制御します。陳列失敗時には Telexistence（遠隔操作）モードへ移行し、インターネットを通じて人が遠隔から直接的、直感的にロボットを制御し迅速に復旧を行うことが可能です。

また、『Gordon』は店舗の過去の販売実績データを学習することで、時間帯や季節により変化する商品の売れ筋に合わせ、『TX SCARA』による陳列タイミングを最適化します。こうしたロボティクス・AI 技術の活用により、一日約 1,000 本行われている飲料陳列業務を、店舗従業員に代わり 24 時間担います。一方、店舗従業員は売場を離れることなく、接客業務など、より付加価値の高い業務に取り組むことができます。

この取り組みにより、作業工数が大きく、人間への負担も重い商品陳列業務を自動化・遠隔化することで、生産性の向上や非接触化、お客さまの利便性向上を加速してまいります。

この取り組みは、ファミリーマートが2019年11月より参画する経済産業省における「ロボット実装モデル構築推進タスクフォース」の一環でもあり、ロボットを活用した店舗の省人化や新しい店舗オペレーション基盤の構築を目指しています。

ファミリーマートは、「あなたと、コンビニに、ファミリーマート」のもと、地域に寄り添い、お客さま一人ひとりと家族のようにつながりながら、便利の先にある、なくてはならない場所を目指してまいります。

TXは、ロボットを変え、構造を変え、世界を変える、をミッションとし、遠隔操作・人工知能ロボットの開発およびそれらを使用した事業を展開するロボティクス企業です。世界中から高い専門性をもつ人材が集まり、ハードウェア・ソフトウェア、AI、遠隔操作技術を一貫して自社で開発しています。ロボットの活躍の場を工場の外にまで広げ、労働に関わる社会の基本的なあり方を変革することを目指します。

以上

■店舗概要

店舗名称：ファミリーマート経済産業省店

住所：東京都千代田区霞が関1丁目3番1号経済産業省庁舎内

営業時間：7：00～24：00

店舗面積：約146㎡

<株式会社ファミリーマート>

所在地：東京都港区芝浦三丁目1番21号

代表者：代表取締役社長 細見 研介

設立年月日：1981年9月1日

会社HP：<https://www.family.co.jp/>

<Telexistence 株式会社>

所在地：東京都中央区晴海4-7-4 Cross Dock Harumi 1F

代表者：代表取締役 兼 最高経営責任者 富岡 仁

設立年月日：2017年1月23日

URL：<https://tx-inc.com>

<ご参考：TX SCARA と GORDON の主な特長>

●TX SCARA：CVS バックヤードでの飲料陳列にロボットの関節軸構成やリンク長などを最適化した自社開発ロボット。既存店舗のバックヤード環境を変更せずに導入可能なハードウェアを実現。

●Gordon：TX 独自の AI システムであり、冷蔵ケースの商品充足状況（Shelf Scanning Module）や陳列すべき飲料の把持点などを認識し、把持から陳列までのエンドエフェクタの経路計画生成を行う。

●Telexistence モード（遠隔操作モード）：想定していない環境変化が原因で AI による陳列が失敗した場合、Gordon モード（自動制御モード）から Telexistence モードへ移行。インターネットを通じた人による直接的なロボット制御で陳列業務を100%成立させることが可能。